

## 上田 顕博士研究員「Reaxys PhD Prize 2010 Runners-up」受賞

理学研究科化学専攻（物性有機化学研究室）の上田 顕博士研究員（日本学術振興会特別研究員PD）が、Reaxys PhD Prize 2010 のRunners-upを受賞しました。

Reaxys PhD Prize は、化学反応検索システムとして世界的に広く活用されている Reaxys を開発した Elsevier 社が本年新たに設立した国際賞であり、有機化学、有機金属化学、および無機化学の分野で独創的かつ革新的な研究成果を挙げた、世界各国の優れた若手研究者（博士課程修了後1年以内または博士課程在籍）に贈られるものです。詳細は Reaxys Prize のホームページ（<http://prize.reaxys.com>）に記載されております。

上田博士は、理学研究科化学専攻の森田 靖准教授の指導の下、三次元的な電子スピン構造を有する非平面 共役型の安定な開殻有機分子の合成と物性に関する研究を行い、本年3月に理学博士の学位を取得しました。非平面型の開殻有機分子は、三次元的な電子スピン構造を有する希有な有機化合物として、基礎および応用の両面から近年注目を集めています。しかし、これらの化合物群は、従来空気中で不安定であり、これまでその構造や物性に関する分子レベルでの詳細な研究は皆無でした。上田博士は、有機合成化学を基盤とした独自の分子設計指針を基にして、曲面型の 共役系分子骨格上に電子スピンの高度に非局在化した空気中でも安定な開殻有機分子を、世界に先駆けて開発しました。そして、構造・物性有機化学の観点から、その特異な構造および電子的特性を詳細に明らかにしました。これらの結果は、ドイツ化学会誌 *Angew. Chem. Int. Ed.* やアメリカ化学会誌 *J. Am. Chem. Soc.* に学術論文として掲載



表彰状を受け取る上田博士（左）

され、世界的に大きな注目を受けました。以上の研究成果が世界各国の一流化学者で構成される Reaxys PhD Prize 審査委員会で高く評価され、今回の受賞に至りました。有機 電子系物質の合成や各種の物性創出に関する基礎研究を行う構造・物性有機化学分野では、日本人唯一の受賞者です。

なお、受賞式および受賞講演は、2010年8月29日から9月2日にかけて、ドイツ・ニュルンベルクで開催された「The 3rd EuCheMS Chemistry Congress」で行われました。

（理学研究科・理学部）